



発行日：平成 26 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 22 回山部会WGを開催しました！

11 月 21 日（金曜日）に第 22 回山部会WGが恵那市明智振興事務所にて開催されました。今回の WG では、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 26 年 11 月 21 日（金）14 時 00 分～17 時 00 分
場所：恵那市 明智振興事務所 ききょう会議室
参加者：17 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくりは、今年度取材を行う 21 団体と取材者のマッチングが前回の WG で決定され、現在、取材が進んでいる状況です。

引き続き、「山村再生担い手づくり事例集」の作成に向け、取材と編集作業を進めていきます。

なお、取材結果の中間検討会を 12 月 16 日（火）に矢作川研究所で実施し、今後の進め方や編集に向けたスケジュールなどの確認を行います。



2. 山村ミーティングについて



山村ミーティングは、矢作川流域圏でほかの団体が開催するイベントなどに合わせて情報収集を進めています。2015 年 2 月 6 日に豊田市小原で開催が予定される、車座ミーティングの案内がありました。ミーティングでは、山村の移住定住など、テーマごとに話し合いが行われる予定です。

矢作川流域圏懇談会のメンバーも活動に参加することから、バックアップしていくことになりました。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、矢作川流域圏にどのような森があるか等、特徴的な森づくりに関するリストを作成することになりました。

今年度の成果として、これまでに現地視察を行った「矢作川流域圏の特徴的な森づくり」や典型的な放置林、地域にある巨木などの情報収集を行っていきます。そのうえで、今後、ガイドラインに必要な情報について、その収集方法などを意見交換していきます。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現化するため、市民がアクションを起せる取組などについて意見交換しています。

木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所などが具体的に示され、「さあ～しよう」のフォーマットにあわせて皆様からの提案も継続して募集中です。

また、「スギダラ「どこでも～シリーズ」の製作内容について」も「人が居心地良くいられる場所・空間」づくりのためのスギダラ製品について案が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

これまでに、今年度取材を行う 21 団体を決定し、取材者とのマッチングを行った後、取材を開始している状況です。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
 → 10月~12月中旬(取材):事前検討会 10月、**中間報告会 12月16日** → 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定) → ふりかえり(1~2月)

○取材先と取材者の組み合わせの結果

取材先	取材者
木の駅ねばりん、ねば杉っこ餅、竹内牧場	*沖章枝、松井賢子、浅田益章
ゴーバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	*山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんべまるけ	*丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	*蔵治光一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園	*浜口美穂、蜂須賀功
こいけやクリエイト、アグロブエルタ、とよたプレーパークの会	*近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	*今村豊、唐澤晋平



●山村ミーティングについて

2015年2月6日のイベントでは、パネラーとして大島さん(移住定住WG)、南木さん(スモールビジネスWG)が担当します。一般参加も可能ですので是非ご参加ください。

- ・山村ミーティングは1ターンの人たちが集まるものにしていきたい。(丹羽)
- ・山村に関わるイベントに対して、矢作川流域圏懇談会は、協賛・共催など、活動をバックアップする基盤のようなかたちで関わればよい。矢作川流域圏の中の他の団体とのつながりをしていくことが重要である。(丹羽)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏にどんな森があるのかというリストアップを行います。

今年度の山部会WGで現地見学を行った結果などをふまえ、引き続き、行政から情報収集を行っていきます。

○主な意見

- ・依存体質とはどのような意味か?(今村)
 - ▶ 時限付の県税投入が経年で増加傾向にある意味で依存体質と捉える。(蔵治)
- ・緑づくり税がなくても、自伐林家的な業の動きを作り出すことが重要。(丹羽)
 - ▶ 人口が減ってきてきて財源に依存しがちだが、一方で志をもつことが重要。(今村)
 - ▶ 森林組合は眼差しの団体。色々なものを育てていき、森林組合が最初の一步を作り、手習塾などで応援していくことも重要。(丹羽)
- ・ガイドラインには、間伐の効果が時系列で理解できるものがあるとよい(高井)
 - ▶ よい例以外にも、典型的な放置林などもあると分かりやすい。(大島)
 - ▶ 森を知らない人にとっては、地域にある巨木なども見せられるとよい。(今村)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドライン作成・活動方針(案)が示され、下記の6つのことについて意見交換が行われました。

1. 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について / 2. 木づかいガイドラインの原稿依頼について / 3. 木づかい推進・木づかいガイドライン事業の各市町村連携による予算化について / 4. スギダラ「どこでも~シリーズ」の製作内容について / 5. スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて / 6. スギダラキャラバンについて

○主な意見

- ・木づかいガイドライン作成を通じ、山に金を戻す仕組みを見える化することが大切。流域圏でスギダラをやる意味や、木づかい推進に伴う新たな業の検討には、安心の連鎖、生活の質を高めること等も含めて考えていくことが重要。(丹羽)
- ・4については、製作が容易で手軽にできるものがあるとよい。(松井)
- ・趣味には優先的にお金を使うケースもある。ペット関係ならお金をかけてもよいなど、利用者の趣味につながるものがどこでもシリーズで検討できるとよい。(高井)
- ・矢作川は下流に非常に大きい消費地を抱えている。矢作川流域の材・木材を利用してもらおうためという言葉を入れるとよい。(高井)
- ・6は流域圏が対象範囲であることを全面にしてブレイクさせていくとよい。(丹羽)
- ・製作シリーズに小物系が少ないので今後検討し参入できるとよい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第23回山部会は12月19日(金)豊田市にて開催します。
 今年度の山部会地域部会は、1月29日に開催されます。

